

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外渚4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&i_gyosvoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き活きと!!」』を施設理念とし、全スタッフ支援させて頂いています。
 特浴室が設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能となっています。現在は介護度の高い方が多く、活動に制限がありますが、毎月、音楽療法を行い、懐かしい歌や季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるようにしています。また、近隣にある喫茶店や買い物時に一緒に出かけたり、散歩に行ったりと、外気に触れ気分転換して頂けるようにしています。また、地域の関わりとしましては、自治会行事や中学校の体育大会見学をさせて頂いたり、保育園児の来苑があったりし、交流できる機会を大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの持てる力を活かし少しでも出来ることを行ってもらい、生き活きと笑顔で過ごせるよう支援している。職員は、時間をかけて声掛けをして会話、表情や行動を見て思いを汲み取り、一人ひとりに合わせたケアを心がけている。
 職員間の連携が取れており、職員の意見や要望なども気軽に伝えることができ風通しの良い職場となっている。
 また、専門医の受診の際、家族の同行が困難な時は、職員が同行したり、必要時には提携医の訪問があり、終末期まで受け入れたりするなど利用者、家族の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、法人の方針に基づいた独自の理念を作り、毎月の全体会議で唱和し、理念に沿ったケアができていのか振り返っている。ご利用者様のできる力を活かして、地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。	理念の「利用者様本位『できる力で生き活きと』」を実践に活かせるよう話し合っている。アンケートの結果を含めてカンファレンス会議の時などに、利用者話し合い、利用者のできる力を活かしているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、地元の保育園児が来苑してくれ、交流を行ったりしている。また、近隣の喫茶店や散歩に出かけ、地域の方と話せる機会を作っている。	散歩時や喫茶店利用時に近隣の人と挨拶をしたり、自治会に入り地域の情報を得て行事などに参加している。依頼により保育園児が来てもらえるようになった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。運営推進会議では、自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告を含め、事業所の実情を報告し、全参加者にご意見をお聞きしている。その報告書や会議録は、全利用者様のご家族様に郵送させて頂いている。会議の内容は全体会議の場でも伝え、指摘事項については、話し合い、解決するようにしている。	服薬事故が心配との意見で、薬の準備は複数で行い、飲み込むまで確認するように徹底した。隣接の事業所と合同で会議を開き、後半に単独の場を持つ方法を取っている。利用者・家族の出席がないことがあり単独の会議が難しい時もある。	利用者、家族の出席も得て、活発な意見が交わされ、より充実した会議になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の手続き代行や、報告書類の提出時は、直接担当の方に会い、最近の暮らしぶりや状態を報告し、相談しやすい関係作りを努めている。	事業所の実情などを報告し、担当者からは空き情報や看取りについての質問があるなど相談しやすい関係を作っている。利用者から後見人制度の相談を受け、行政に繋いで手続きをした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面しているという立地条件から、施錠させてもらっているが、散歩や気分転換できるよう外出する機会を作り、外気に触れられるようにしている。また、全体会議時の勉強会で身体拘束の内容や弊害について学び、介護度の高い方でも外出できるよう努めている。	職員は事業所内部や外部の勉強会に参加し、言葉による拘束など具体的な行為を理解している。利用者の希望があれば、一緒にベランダや外に出るなど、気分転換を図り身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に虐待に関する勉強会を行い、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識が持てるようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議時に勉強会を行い、全スタッフが理解や再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢をご説明させて頂き、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に年一回、アンケートを取らせて頂き、意見を集約し、結果を報告している。江並新聞の発行、各受持ち担当者からの近況報告を行っている。面会時は、こちらからお声をかけ、意見をお聞きするようにしている。	面会時に意見・要望を聞いたり、家族アンケートに意見を記入してもらったりしている。季節を感じられるような外出を望むとの要望があり、桜並木の散歩や運動会の見学などを取り入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回自己評価を行い、リーダー・管理者・ホーム長立会いのもと確認し、面談で意見を聞いている。毎月の全体会議や日々の介護でも意見を出し合い、全職員で検討し取り入れている。	管理者やリーダーは日頃から話を聞いたり、連絡ノートを見たりして要望を聞いている。食洗機の購入やベットの買い替え、オムツや食事形態の変更などの意見が出され取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。職員のモチベーションが保たれるよう、研修案内をいつでも閲覧できる場所に置き、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、一人一回は外部研修に参加するよう呼びかけ、職員のほとんどが研修に参加している。研修代は事業所側が負担しており、その後全体会議で報告会を行っている。資格取得についても呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人全事業所の管理者や介護支援専門員が集まるトップマネジメント会議があり、勉強会や意見交換を行っている。他の事業所の取り組みについて、良い事は施設内の活動に取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらい、安心して頂いた上で入所申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様やご家族様より生活状況や今後の生活に対する思いを十分お聞きし、安心して暮らして頂ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様のご苦労や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聴くことにしている。話を聴く事で、ご家族様が求められておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーより話を聴き、相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っているのかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員は、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報の共有に努め、ご本人様と一緒に支えていくために、ご家族様と同じような思いで支援させて頂き、信頼関係をより深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、法事やお墓参り、ウインドウショッピングに出かけられている。面会時間は特に限定しておらず、友人や知人、ご親戚の方の面会時も、ゆっくりと過ごして頂けるよう環境作りに努めている。再来訪をお願いしている。	日々の会話や家族、関係者の情報から馴染みの人や場所を把握している。家族の協力を得て知人の訪問を依頼し、訪問の際は、部屋に飲み物を運ぶなど、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。また、再来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をお聴きしたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごせる時間の場面作りをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいくよう、良き調整役になれるよう、職員間で情報を共有し、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで施設で過ごされてこられたご利用者様の生活リズムの情報を詳細に提供し、他施設や病院へ移られても、混乱が少しでも軽減できるように努め、きめ細かな連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる方はもちろんのこと、困難になられた方に対しても、会話に時間をかけ、表情や行動から、思いをくみ取るように努めている。	会話に時間をかけている。会話が困難な人には、返答がなくても声掛けし、表情や行動より、嫌いな事か、そうでないかなどケアの中で思いをくみ取り、試みて確認するよう努めている。申し送りノートに書いて情報を共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らしぶりや、価値観等を良くお聞きし、大切にされてみえた物等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃してしまわないよう心掛けている。毎月の全体会議時にケースカンファレンスを行い、職員間で検討事項を話し合い、現状を全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員は日々の関わりの中での気づきを、毎月のケースカンファレンスの中で意見交換を行い、そのモニタリングから、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様のご希望、医師から指示がある場合は、介護計画に反映させている。	毎月のモニタリングを反映し、利用者・家族の希望や医師の指示を入れながら、カンファレンス会議を開いている。全職員が意見交換をしながら介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容を基に、担当職員が記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また、行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市・自治会長・民生委員・消防署より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望があり、かかりつけ医を協力医に変更され、往診を受けておられる。看護師がオンコール体制となっており、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂けるようになっている。	利用者・家族の希望で、入居時より協力医がかかりつけ医となっている。専門医の受診の際、基本は家族同行の受診であるが、家族の希望により職員が同行している。受診前後は家族に連絡し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、いつもと違うなという些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて、看護師やケアマネージャーがお見舞いに行き、その際、担当の相談員や看護師より情報を得ている。また病院側へも施設で過ごしてみえたご様子をお伝えし、ご家族とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を説明している。状況の変化に応じて、その都度、説明し確認を取り、ご家族様・協力医・全職員が連携しながら最期まで関わらせて頂く事も多い。	入居時に事業所の方針を説明し、同意書を交わしている。状況変化時には、その都度家族に説明し話し合いながら確認して方針を共有している。必要時には、職員にケアの指導を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員・ご利用者様・消防署員・地域の方に参加して頂き、隣接している同法人の事業所と合同で避難訓練を行っている。その際、避難方法の確認を行うと共に、ご利用者様と一緒に消火器を使用した消火訓練も行っている。	夜間想定を含め隣接の事業所との合同と単独の訓練を年2回行っている。避難スロープを使う訓練を行った。自治会より水害などの災害時には事業所建屋を一時避難所とすることを提案され、受け入れる体制となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴時の誘導は、ご本人様のそばでお伺いし、使用時は必ず、扉やカーテンを閉め、プライバシーに配慮した支援を心掛けている。個々に合った声かけを行い尊厳を傷つけないようにしている。	利用者を尊重した呼び方や排泄時の誘導などプライドを傷つけないよう配慮している。居室扉は利用者により完全に閉まらなかったり、透明ガラス部分に貼った色紙が一部はがれていたりし、プライバシーの確保ができていない部分がある。	居室扉の透明ガラスの部分の工夫や、閉まらない状態を回避するなどプライバシーが確保されることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様自身の思いを素直に表現できるように問いかけるような言葉かけを行う等配慮し、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のコンディションに合わせ、生活して頂けるよう、何に対しても最初から無理強いはいしない。ご希望をお聞きしたり、表情からその方のお気持ちを読み取るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるように、今まで着てこられた服をお持ち頂いたり、くしで髪をとかせる方は、ご自身で整えたりして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせて食事形態を考え、召し上がってもらっている。季節の食材を取り入れたり、ホットケーキと一緒に作ったりし、食べる事が楽しめるようにしている。	職員が利用者の好みを考慮して調理している。利用者の希望するメニューを出せるよう海苔が食べられない人には薄焼き卵で包んだり、正月には嚙下しやすい形で餅を提供するなど、食事を楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少なく、栄養不足の恐れがある方にはエンシュアリキッド等を飲んで頂いたり、飲み込む力が弱くなられた方には、トロミをつけさせて頂いたりし、なるべく経口から摂取して頂けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関してはお声をかけさせていただき、ご自身では難しい方に関しては、口腔ケアスポンジや軟毛の歯ブラシを使用しその方に合ったケア方法で介助させて頂き、清潔を保てるようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄記録を参考にし、その方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換を行っている。なるべく、ゆっくりと排泄できるように便座に座られている時間等も配慮している。	排泄パターンを把握し、表情・しぐさなどを見てトイレに誘導している。夜間はパットやオムツを使用する人もいるが、日中は座位や立位を取れる人にはできる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様に応じて、バナナやヨーグルトを召し上がって頂いたり、入浴時に腹部をマッサージさせて頂いたり、水分量の不足が考えられる方には、お声をかけ水分を摂って頂くようにし、自然な排便となるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴室には昇降機、また特浴室もあり、ご利用者様に合わせた入浴方法で入浴している。入浴の順番やお湯の温度にも配慮し、入浴できない時は清拭や足浴を行っている。	一般の入浴や昇降機使用の入浴、特浴室での入浴など利用者に合わせた入浴方法が出来る。特浴の人も週2回は必ず入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる人には機嫌を損ねないように声掛けの仕方を工夫して介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でもその方の生活習慣や体調に合わせて、いつでも居室で休んで頂けるよう空調管理に気をつけ、リビングで傾眠されておられる方は、居室へご案内し、気持ちよく過ごして頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様が服薬されておられる薬の目的や用法が確認できるようにファイルが作成しており、いつでも確認できるようになっている。また、心身に異常はないか、常に把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、一緒に洗濯物を置んだり、歌を歌ったりと小さな事でも役割や楽しみを持ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の体調や希望に合わせて、散歩を兼ねて近くの喫茶店やハンバーガーショップ等へ外出している。お墓参りやウインドウショッピング等、ご家族様の協力を得て、ご本人様の希望される場所へ出かけられる事もある。	車いすの人も職員の介助により出かけている。桜並木や中学校まで散歩したり、喫茶店や買い物に行ったりしている。地域の祭り・初詣・花見や運動会見学など季節を感じられる外出をしている。外出できない時は、駐車場やベランダに出て外気に触れる機会を作っている。	

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方に関しましては、ご家族様に了承をいただいた上で、所持できるようになっている。買い物に関して、ご要望があった場合は、気分転換を兼ねて一緒に買い物に行く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の進行に伴い、文字を書かれる事が困難な状況にあるが、届いたお手紙をご本人様にお渡しし、お部屋に飾ったり、電話をしたいというご希望があった場合は、電話を話しができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに加湿空気清浄機を置き、乾燥を防ぎ、明るさや室温調整等にも努めている。スタッフが育てた季節の花をリビングに飾るなど、少しでも季節を感じられるようにしている。	ピンなどの危険を避けるため共有空間壁面の飾りは極力していない。カーテンやブラインドをこまめに開閉して外光や室温を調節したり加湿器を置いたりして居心地良く過ごせる工夫をしている。ベランダや居間には洗濯物が干してあり生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士のご様子を観察し、気の合う方同士は隣席としたり、他の方とのかわりが苦手な方は離れた席やお一人用の席とし、個々のご利用者様に合った対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真を飾られたり、お位牌を置かれ、毎日お茶やお菓子をお供えされたり、テレビ・お布団類を持ってこられ、ご本人様のなじみの物や使い慣れた物を活かしながら、快適な環境作りに努めている。	利用者の持参したテレビやぬいぐるみが置かれ、畳敷きの部屋には座椅子があるなど、その人らしく落ち着ける居室としている。職員は利用者や相談しながら転倒など事故のないようその人に合った車いすの置場所や動線を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になる物は撤去し、安全な環境作りに努めている。車いすを利用しておられる方も移動しやすいように、配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目97番地1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_1_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172101095-00&PrEfCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、法人の方針に基づいた独自の理念を作り、毎月の全体会議で唱和し、理念に沿ったケアができていのか振り返っている。ご利用者様のできる力を活かして、地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、地元の保育園児が来苑してくれ、交流を行ったりしている。また、近隣の喫茶店や散歩に出かけ、地域の方と話せる機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。運営推進会議では、自治会長様・民生委員様・地域の方・ご家族様に活動状況を報告すると共に、認知症に対する理解を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告を含め、事業所の実情を報告し、全参加者にご意見をお聞きしている。その報告書や会議録は、全利用者様のご家族様に郵送させて頂いている。会議の内容は全体会議の場でも伝え、指摘事項については、話し合い、解決するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の手続き代行や、報告書類の提出時は、直接担当の方に会い、最近の暮らしぶりや状態を報告し、相談しやすい関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、国道に面しているという立地条件から、施錠させてもらっているが、散歩や気分転換できるよう外出する機会を作り、外気に触れられるようにしている。また、全体会議時の勉強会で身体拘束の内容や弊害について学び、介護度の高い方でも外出できるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議時に虐待に関する勉強会を行い、知識を再確認する機会を持ち、共通の認識が持てるようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全体会議時に勉強会を行い、全スタッフが理解や再認識できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所のケアに対する姿勢をご説明させて頂き、了承を得ている。重度化や看取りに対する指針、医療連携体制や料金体制、また契約解除に至る対応等、そしてその後の支援にも納得が得られるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に年一回、アンケートを取らせて頂き、意見を集約し、結果を報告している。江並新聞の発行、各受持ち担当者からの近況報告を行っている。面会時は、こちらからお声をかけ、意見をお聞きするようになっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回自己評価を行い、リーダー・管理者・ホーム長立会いのもと確認し、面談で意見を聞いている。毎月の全体会議や日々の介護でも意見を出し合い、全職員で検討し取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の体調や家庭環境に合わせた労働時間になっている。本人の勤務希望をできる限り可能にし、働きやすいようにしている。職員のモチベーションが保たれるよう、研修案内をいつでも閲覧できる場所に置き、学べる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、一人一回は外部研修に参加するよう呼びかけ、職員のほとんどが研修に参加している。研修代は事業所側が負担しており、その後全体会議で報告会を行っている。資格取得についても呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、同法人全事業所の管理者や介護支援専門員が集まるトップマネジメント会議があり、勉強会や意見交換を行っている。他の事業所の取り組みについて、良い事は施設内の活動に取り入れ、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、雰囲気を感じてもらい、安心して頂いた上で入所申し込みをして頂くようにしている。事前面接などで、ご本人様やご家族様より生活状況や今後の生活に対する思いを十分お聞きし、安心して暮らして頂ける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様のご苦労や、今までのサービスの利用状況や経緯について、ゆっくり話を聴くことにしている。話を聴く事で、ご家族様が求められておられる事を理解し、事業所としてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所と考えるのではなく、担当されておられるケアマネージャーより話を聴き、相談させて頂いたり、ご本人様やご家族様が何に困っているのかを明確にした上で、ニーズを確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員は、人生の先輩であるご利用者様に色々な事を学ばせて頂いたり、励ましを頂いたりして、働く者としての元気や意欲につながっている。お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況をご家族様にお話しし、情報の共有に努め、ご本人様と一緒に支えていくために、ご家族様と同じような思いで支援させて頂き、信頼関係をより深く築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、法事やお墓参り、ウインドウショッピングに出かけられている。面会時間は特に限定しておらず、友人や知人、ご親戚の方の面会時も、ゆっくりと過ごして頂けるよう環境作りに努めている。再来訪をお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をお聴きしたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごせる時間の場面作りをする等、ご利用者様同士の関係がうまくいくよう、良き調整役になれるよう、職員間で情報を共有し、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで施設で過ごされてこられたご利用者様の生活リズムの情報を詳細に提供し、他施設や病院へ移られても、混乱が少しでも軽減できるように努め、きめ細かな連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる方はもちろんのこと、困難になられた方に対しては、会話に時間をかけ、表情や行動から、思いをくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで担当されてみえたケアマネジャーより、今までの暮らしぶりや、価値観等を良くお聞きし、大切にされてみえた物等は可能な限りお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話の中から、小さな心身状態の変化も見逃してしまわないよう心掛けている。毎月の全体会議時にケースカンファレンスを行い、職員間で検討事項を話し合い、現状を全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員は日々の関わりの中での気づきを、毎月のケースカンファレンスの中で意見交換を行い、そのモニタリングから、介護計画を見直している。ご利用者様・ご家族様のご希望、医師から指示がある場合は、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな事でも記録に残し、申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。プラン評価に関しては、ケースカンファレンスで話し合った内容を基に、担当職員が記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、通院の送迎や衣類・介護用品の購入、また、行政等への申請に関する助言等、個々のニーズに柔軟に対応し、満足度を高めるようにしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の場を活用し、市・自治会長・民生委員・消防署より情報を頂いたり、日頃より何かあった場合の協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様のご希望があり、かかりつけ医を協力医に変更され、往診を受けておられる。看護師がオンコール体制となっており、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂けるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、いつもと違うなという些細な変化でも報告し、小さな状態変化も見逃さないようにしている。看護師は24時間オンコール体制となっており、適切な看護や受診ができるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて、看護師やケアマネージャーがお見舞いに行き、その際、担当の相談員や看護師より情報を得ている。また病院側へも施設で過ごしてみえたご様子をお伝えし、ご家族とも情報交換に努め、速やかな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を説明している。状況の変化に応じて、その都度、説明し確認を取り、ご家族様・協力医・全職員が連携しながら最期まで関わらせて頂く事も多い。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアル、応急処置や救急車が到着するまでの対応についての勉強会を行い、落ち着いて行動できるように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員・ご利用者様・消防署員・地域の方に参加して頂き、隣接している同法人の事業所と合同で避難訓練を行っている。その際、避難方法の確認を行うと共に、ご利用者様と一緒に消火器を使用した消火訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時は必ず、扉やカーテンを閉め、プライバシー保護に努めている。排泄時の失敗や汚染されてしまった時も、その方の誇りを傷つけない声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合を押し付けるのではなく、些細な会話から関わりを増やし、思いや希望を表出して頂けるような関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身で移動が可能な方は、その行動を制限する事なく、好きな場所で過ごして頂いている。ご自身で気持ちを言葉にできない方に関しては、表情や様子から、気持ちを読み取り、お疲れの様子であれば、居室へ誘導する等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様が以前、着ておられた服をお持ち頂いたり、なるべくその日に着られる服をご自身で選んで頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を考え、皆さん同じメニューを召し上がって頂けるようにしている。キッチンと一緒に立つことは難しいですが、つくしの袴を取ってもらったり、おやつ時のハンドミキサーの使用等、リビングでできる事で食事に関わってもらえるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく経口から摂取して頂けるよう、個々の状態やできる力を、日々考えながら提供の仕方を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方に関しては、なるべくご自身で頂き、ご自身で行う事が難しい方に関しては、口腔ケアスポンジやガーゼを使用し、毎食後清潔が保てるようにケアさせて頂いています。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や申し送りを基に、ご利用者様の排泄パターンを把握し、様子を見ながら声かけや誘導を行っている。ゆっくり排泄して頂けるよう、スタッフ間連携し、便座に座られている時間等も配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや牛乳を飲んで頂いたり、腹部をマッサージさせて頂いたりし、少しでも自然な排便につながるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ気持ちよく入って頂けるように、個々の状態に合わせて、一般浴かもしくは特浴にて入浴して頂いている。順番や湯温にも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせて、日中でも休息できるようにしています。冬場は、湯たんぽを使用する等、その方に合った環境を整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様が服用されておられる薬に関するファイルが作っており、いつでも目的等の内容が確認できるようになっている。忘れず服用して頂くために常にセット時や飲み込み確認まで行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり、新聞を折ってもらったりとその方のできることで役割づくりや気分転換できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やハンバーガーショップへ行ったり、地域のお祭りや中学校の体育大会見学に行ったりしている。		

グループホーム 江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方に関しては、ご家族様の了承のもと、所持頂く事もできるようになっている。スタッフと一緒に買い物やウインドウショッピングに行き、気分転換できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話や手紙のやり取りができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に移動できるように動線に障害物になるような物は置かない。トイレに消臭剤を置くなどし、気持ちよく過ごして頂けるような空間作りに努めている。12月にはクリスマスツリーを飾るなど季節を感じられるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテレビやソファを設置し、気の合う方と歓談できるように、また落ち着いて生活して頂けるような席の配置を、日頃から心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様に落ち着いて過ごして頂けるよう、入所するまでに使用されておられた物や、写真をお持ち頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様のできる力を活かし、安全に安心して過ごして頂けるよう、日々工夫をしている。		